

学修成果の把握・可視化について

学修成果の把握・可視化＝一人一人の学生が自らの学びの成果（学修成果）やその結果身に付けた能力を把握できるようするとともに、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた到達目標の達成度をエビデンスとともに自ら説明できるようにすること。

大学が「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を備えた学生を育成できていることをエビデンスと共に説明できるようにすること。

【前提】

- ・学位プログラムの「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）において、卒業生が「何ができるようになるのか」が、専門分野に係る能力も含め、適切な観点から「～できる」という記述により定められていること。
- ・カリキュラムマップ・ツリーの作成やナンバリングの実施等により、「卒業認定・学位授与の方針」に設定された各観点を満たす上で必要な授業科目が過不足なく体系的に編成されていること。
- ・学生の主体的な学修の前提として、個々の授業科目のシラバスにおいて、到達目標及び「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準並びに事前・事後学修の内容が学生に対し適切に示されていること。
- ・成績評価の方針が大学全体で統一され、学位プログラムにおいては各授業科目の授業内容や到達目標に応じた適切な成績評価手法が選択され、これに基づき個々の授業科目において厳格な成績評価が実施されていること。
- ・教育の成果に対し、学位プログラム共通の考え方や尺度に則った点検・評価が、点検・評価の目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについてあらかじめ定められた方針に基づき行われること。
- ・学生が「卒業認定・学位授与の方針」そのもの、及びシラバスに示された各科目の到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係や、単位制度の趣旨を理解していること。

1. 大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において学内で収集可能と考えられるものの例

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
単位の修得状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて設定された個々の授業科目の到達目標をどの程度の水準で達成できているかを明らかにする ・「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる科目においては、学生が当該能力をどの程度の水準で備えているかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が単位を修得した授業科目に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評定の分布状況 ・学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け ・個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる科目においては、当該能力の達成状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの収集 ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
学位の取得状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、個々の授業科目の履修の結果として、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を備えていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が取得した学位に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・学位の名称、学位に係る「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力及び当該学生が属する学位プログラムにおいて当該学位を取得するために要する平均年数 ・学生が学位取得に要した年数及び上記平均年数との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与履歴を収集
進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率など）	<ul style="list-style-type: none"> ・大学が、進学や就職等を希望する学生に対して進路を保証できているかを明らかにする ・大学が「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される人材育成を行っているか否かを、進学先の大学院や就職先の企業等における評価と対照することを通じて明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の進路（進学、就職等）に対する希望状況 ・学位プログラム修了者の進路（進学先や就職先等）及びその全体状況（修了者の総数を分母とする進路毎の割合等） ・特定の職域の人材育成を目指すなど、「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される進路がある場合には、実際の進路動向との一致の程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路が決定した学生へのアンケート調査を通じて収集 ・「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される特定の進路の有無についてあらかじめ分析した上で、一致の程度について分析

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法									
学修時間	<ul style="list-style-type: none"> 単位制度の趣旨を踏まえ、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の時間を明らかにすることで、学生が、学位プログラムが期待する水準の能力を身に付けるための一般的な前提条件を満たしているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生が授業内外それぞれの学修に費やした時間の平均値（①）及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間数の平均値（②） 個々の学生が授業内外それぞれの学修に費やした時間数（③）及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間（④） 上記①及び②、①及び③並びに③及び④の比較 <p><参考></p> <table border="1" data-bbox="1341 541 2050 659"> <thead> <tr> <th></th> <th>全体</th> <th>個人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実測時間</td> <td>①（平均値）</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>想定時間</td> <td>②（平均値）</td> <td>④</td> </tr> </tbody> </table>		全体	個人	実測時間	①（平均値）	③	想定時間	②（平均値）	④	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じた収集 ※この点については、大学毎の個別の事情や複数の大学を対象とする既存の調査における調査手法も勘案しつつ、以下のような点を検討する必要があるのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> 学修時間の集計単位（1時間単位で把握するか、0-5時間のように幅を持たせて把握するか、など） 集計期間の選定（平均的な一週間で良いか、など） ※学修時間以外の生活時間の調査を併せて行うことも考えられるが、そうしたデータの必要はあるか 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
	全体	個人										
実測時間	①（平均値）	③										
想定時間	②（平均値）	④										
学生の成長実感・満足度	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定めるそれぞれの能力をどの程度身に付けられているか等について、学生自身の主観的な評価を明らかにする 大学が、ある学位プログラムに所属する学生から「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力の育成に関してどのような評価を受けているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力の伸長に対する主観的な評価の平均値 「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力の伸長に対する個々の学生の主観的な評価 	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じた収集 									
学生の学修に対する意欲	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定めるそれぞれの能力の獲得に向けてどの程度意欲的に学修活動へ取り組んだかを明らかにし、これにより学生が大学教育において前提とされる主体的な学修姿勢をどの程度身に付けているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、大学における学修活動への意欲の平均的な傾向 個々の学生の学修活動への意欲 	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じた収集 学修ポートフォリオ等を通じて収集した個々の学生の具体的な学修履歴に対する教員等による評価・分析 									
修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率	<ul style="list-style-type: none"> 厳格な成績評価が行われていることを前提に、大学が、修業年限期間内において学生の能力を計画的に伸ばし、学位の取得まで到達させていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム毎の、各年度における入学者の修業年限期間が満了した時点での卒業生、在学者、退学者の数と割合（標準年限期間内に学位を取得していない者については、取得に至っていない原因毎の数と割合） ある学位プログラムにおいて学位を取得するために要する平均年数 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与履歴を収集 									

2. 教学マネジメントを行う上で大学において収集することが想定される情報

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
<p>アセスメントテストの結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該アセスメントテストにより測定することができる能力をどの程度の水準で獲得しているかを明らかにする ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に掲げる能力を直接的に測定することができる場合には、学生が当該能力をどの程度の水準で身に付けているかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントテストにより測定することができる能力 ・ 上記の能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力との関係（アセスメントテストにより測定することができる能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定できるものか、当該能力のエビデンスの一つとして用いることができるものか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の分布状況及び平均値 ・ 個々の学生のアセスメントテストの受験状況、その結果及び上記平均値との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントテストにより測定することができる能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる、又は当該能力のエビデンスの一つとして用いることができるアセスメントテスト（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべきアセスメントテスト）の特定 ・ 大学として結果を把握すべきアセスメントテストを受験した学生からの報告による結果の収集 (※「卒業認定・学位授与の方針」に掲げる能力を測定するためにアセスメントテストを利用する場合、大学は、当該テストの目的や測定方法が当該能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。)
<p>語学力検定等の学外試験のスコア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該試験により測定することができる能力をどの程度の水準で獲得しているかを明らかにする ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる場合には、学生が当該能力をどの程度の水準で身に付けているかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学外試験により測定することができる能力 ・ 上記の能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力との関係（学外試験により測定することができる能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定できるものか、当該能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の分布状況及び平均値 ・ 個々の学生の学外試験の受験状況、その結果及び上記平均値との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学外試験により測定することができる能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる、又は当該能力のエビデンスの一つとして用いることができる学外試験（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき学外試験）の特定 ・ 大学として結果を把握すべき学外試験を受験した学生からの報告による結果の収集 (※「卒業認定・学位授与の方針」に掲げる能力を測定するために学外試験を利用する場合、大学は、当該試験の目的や測定方法が当該能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。)
<p>資格取得や受賞、表彰歴等の状況</p>	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該資格の取得のために求められる能力を一定の水準で身に付けられていることを明らかにする ・ 当該資格の取得により、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力の一部を一定の水準で身に付けられていることを明らかにする <p><受賞、表彰歴等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該受賞、表彰等のために求められる能力を高い水準で身に付けられていることを明らかにする ・ 当該受賞、表彰等により、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる場合には、学生が当該能力をどの程度の水準で身に付けているかを明らかにすることができる 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格の取得により証明される能力 ・ 上記の能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力との関係（資格取得により証明される能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定できるものか、当該能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生における資格取得の状況 ・ 個々の学生の資格取得の状況 <p><受賞、表彰歴等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受賞、表彰等により証明される能力 ・ 上記の能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力との関係（受賞、表彰等により証明される能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定できるものか、当該能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属する学生のそれぞれの受賞・表彰等の状況 ・ 個々の学生の受賞・表彰等の状況 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得により証明することができる能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる、又は当該能力のエビデンスの一つとして用いることができる資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特定 ・ 上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 <p><受賞、表彰歴等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の賞や表彰制度等の受賞や表彰等により証明される能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる、又は当該能力のエビデンスの一つとして用いることができる賞や表彰制度等の特定 ・ 上記の賞や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
卒業論文・卒業研究の水準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る能力をどの程度の水準で身に付けているかを総合的に明らかにする ・ 専門教育に係る能力以外のものについても、学位プログラムが提供する教育の集大成である卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な活動を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を直接的に測定することができる場合には、当該能力をどの程度の水準で身に付けているかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業論文・卒業研究に対する評価により直接的に測定することができる「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る能力 ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評価の分布状況 ・ 個々の学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評価 ・ 卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な活動を通じて、「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る能力以外の能力を直接的に測定することができる場合には、当該能力の達成状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業論文・卒業研究の評価により明らかにすることができる能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力のうち専門教育に係る能力との関係の整理 ・ 卒業論文作成・卒業研究実施の成果物に対する指導教員等の評価（例えば、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力のうち専門教育に係る能力を中心として、これらに関連するルーブリック等を用いて評価したものなど） （※成果物に対する評価に加え、卒業論文作成・卒業研究実施の過程に対し適切に評価することも重要。）
留学の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学力や異文化への理解など、留学によって身につくことが期待される能力が「卒業認定・学位授与の方針」に掲げられている場合、学位プログラムにおいて当該能力の獲得のためにどのように留学が利用されているかを明らかにすることができる （※留学先における学修については、上に掲げる項目によっても測定することが可能） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学生が行った留学に関する情報（留学先、期間、学修内容など） ・ 当該留学によって身につくことが期待される能力と、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力との関係 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力の伸長に対する個々の学生の主観的な評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教務履歴や学生へのアンケートなどより収集
卒業生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位プログラムを修了した学生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力を身に付けているかを進学先の大学院や就職先の企業などにおける評価と対照することを通じてより詳細に明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に照らした、実際の卒業生に対する雇用主や進学先の指導教員からの評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の雇用主や進学先の指導教員からのアンケート・ヒアリング等により収集